

伊勢湾・三河湾におけるカブトガニ採集記録 ～てん末記 その1～

2001年8月6日、南知多町豊浜の漁師さんが1匹のカブトガニを捕まえました（写真-1）。豊浜から10kmほど沖合いにある「沖の瀬」という漁場でのことです。日本におけるカブトガニの生息地は、瀬戸内海や九州北部などのごく限られた地域です。人為的な放流も疑いましたが、どこからか流されてきた可能性も捨て切れません。

〔写真-1〕 カブトガニ



しかし、翌年からも次々と見つかり謎は深まるばかり（図-1・表-1）。複数個体を捕まえた片名漁協の漁師さんにご協力いただき（写真-2）、見つかった地点での潜水調査も行いました。さすがに三河湾というか、透明度は低く視界はよくありません。数種類の底生生物を確認したものの、カブトガニの姿や痕跡は確認できませんでした（写真-3）。

〔図-1〕 採集地点



何日か過ぎ、マスコミなどでも取り上げられたある日、「片名漁港内で船につるしておいたカゴから200匹ほどのカブトガニを逃がしてしまった」という人が現れました。これまでに見つかった地点とサイズ的には、この可能性が一番高いと思われ、出所には一応の決着がつけました。しかし、逃がしてしまったのは中国から輸入したカブトガニとのこと。日本産と中国産のカブトガニは、アジアに生息する同一種とされていますが、それはわかっている現時点でのことです。これだけ離れた海域に生息し、移動範囲も限られることを考えると、遺伝子レベルでの違いがあることも否定できません。

〔写真-2〕 片名漁港



しかも、本来生息していなかった（少なくとも現在は）海域に、新たな種が人為的に入り込んだわけです。生態系に与える影響も少なからずあるでしょう。

現在も採集記録は増えており、2006年にはとうとう繁殖可能な成体も見つかっています。当園では、中国産である可能性がかなり高いと判断し、持ち込まれた個体はすべて受け入れています。このまま大きな問題なく納まってくればいいのですが・・・。

〔写真-3〕 潜水調査

